久松海神祭でのハーリーへの自衛隊員出場について
私たちの見解

６月４日付けの宮古新報や八重山毎日新聞報道で、宮古島駐屯地の隊員による海神祭の会場付近の清掃活動や、石垣駐屯地隊員が９日開催予定のハーリー競漕に出場することが明らかになりました。

石垣駐屯地では、「公務として出場し、漕舟訓練・洋上訓練の一環として位置づけている」と説明しています。宮古島駐屯地司令執務室へ電話問い合わせをしたところ、「公務としてではない。私的な参加である」との回答であったが、久松海神祭のハーリー競漕へ複数人の隊員が参加することは認めました。

石垣駐屯地では公務で、宮古島駐屯地では私的であるということ自体、陸上自衛隊の内規としてバラツキがあるとは考えにくいことですが、いずれにしても沖縄の伝統文化である行事に軍事組織の構成員が出場することは、適当であると思えません。

当該の松原自治会関係者に問い合わせたところ、自治会として清掃活動にも、ハーリー競漕にも自衛隊に「参加要請」したわけではないとの回答でした。特に或る市議会議員が熱心に要請し、「自衛隊員がボランティアとして清掃活動に参加する」ということで、「断りにくかった」と聞きました。この当該の市議が実行委員長として昨年開催された地域の音楽イベントでは、会場入り口に自衛隊の軍用車両や小型の戦車である軽装甲機動車などが展示され、中学生が複数飲酒していたことが大きな問題になりました。

ハーリー競漕にも、中学生が参加します。社会的・政治的に判断が分かれる「軍事組織」の構成員が参加する場所で、影響を与えることは望ましくありません。

昨今、沖縄陸自１５旅団のホームページに、沖縄戦における「南部撤退」を決定し、多くの県民を結果死に追いやった牛島中将の辞世の句を載せたり、靖国神社や宮古神社を幹部隊員が参拝したり、太平洋戦争を「大東亜戦争」と呼び、戦死者を「英霊」と祀り上げるような表現が自衛隊のｘ（旧ツィッター）で行われ、戦争を美化する戦前のような傾向が生まれています。軍部の独走が先の戦争の犠牲を生んだその反省から生まれた日本国憲法の下では、政教分離の原則があり、文民統制が国是です。

昨年、伊良部島沖合に墜落した陸自ヘリの犠牲者の慰霊碑が、「黒鷹の勇士」と刻まれて駐屯地内のウタキ（御嶽）の横に置かれていることも問題があります。

「黒鷹」とは墜落したヘリの通称が「ブラックホーク」であったため漢字にしたようですが、１０名の死亡した隊員は事故の犠牲者であり、「勇士」とすることは、戦死者を「英霊」とすることと通底しています。しかも、祈りの場であるウタキのそばに慰霊碑を置くことは、沖縄の精神文化を理解していない行為です。

宮古島でも、基地機能の強化や軍備拡大の進む現在、このように、自衛隊がかつての日本軍と同化・一体化するような風潮、戦前の総動員体制を想像させるような空気を、住民生活の中に持ち込ませることに私たちは反対します。

２０２４年6月6日
ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会